

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ

1. 知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む
2. 自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む
3. 真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む
4. 共に学び、友と育つ力を育む

2 中期的目標

1. 生徒指導、生徒支援の徹底で「安心して学べる」学校空間づくり ~ 知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む

- ア 全教職員で、あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、美化活動及び授業態度等の基本的な生活習慣の改善・定着に取り組む。
- イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。指導を通じた生活状況の把握と生活習慣の改善を促す。
年間延べ遅刻者数を 2021 年度には 2,500 未満とする。(平成 30 年度 年度末 2,506 回)
- ウ 教育支援体制、生徒の相談機能の充実、生徒情報の共有化、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。
 - ・「信太教育支援体制」を確立させ、学年会議、担任会、教育支援委員会、共生推進コーディネーター、保健室等の間で生徒情報の共有を早期から行う。教育支援カードの活用、個別支援計画等の作成と活用で生徒の継続的な支援を行う。特に個別支援の必要な生徒については、「合理的配慮」の観点から抽出や入り込みなどの具体的な方法を講じる。
 - ・スクールカウンセラー、キャリアカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を継続させ、子ども家庭センター、福祉医療関係機関、NPO 等との連携により生徒支援のネットワークをさらに充実させる。「課題を抱える生徒フォローアップ事業」において学校における居場所づくりを充実する。
- エ いじめがなく一人ひとりが大切にされ、誰もが安心して自分を伸ばすことができる学校づくりを推進する。
 - ・いじめアンケートの実施、スクールカウンセラーの活用により、いじめの防止、早期発見の体制づくりに努めるとともに、いじめ等の様々な問題を見逃さずに組織的に迅速に対応し、継続的な支援を行う。
 - ・「誰もが心地よい学校行事」を継続させて、校内でお互いの個性や人権を認め合う学校文化を醸成する。

2. さらなる授業改善とキャリア教育の充実 ~ 自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む

(1) 「学ぶ力」プロジェクトの成果の共有とさらなる授業改善

- ア 3年間の「学ぶ力」プロジェクトチームの成果を継承し、さらなる授業改善を行う。その際、知識・技能の習得に加えて、未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力の育成を行うとともに、学びを人生に活かそうとする力の育成をめざし、他の府立高校、支援学校、泉大津市教育委員会、近隣中学校と連携し、公開授業、公開教職員研修を充実させる。
学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」70%以上をめざす。

(2) キャリア教育の充実

- ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。
- イ 1・2年の早期から大学・企業などの体験学習等を積極的に行い、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。
- ウ 漢字検定や毎日パソコンコンクールについて引き続き全員受験を行い、さらなる上位級への挑戦を図る。
- エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。
卒業時の進路決定者を 2021 年度に 97%にする。(平成 30 年度 95.8%)
生徒・保護者の進路指導満足度を 2021 年度にともに 85%以上にする。(平成 30 年度 生徒 81.5%、保護者 76.4%)
就職内定率は 100%の達成・継続をめざす。

3. 開かれた学校づくりと部活動の充実 ~ 真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む

- ア 運動部活動及び文化部活動の一層の充実を図るとともに、部活動加入率 50%以上をめざす。
- イ 学校説明会・体験入学において生徒が主体となって教育活動を発信するとともに、中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ、校長ブログ、部活動ブログ、学校紹介 DVD、学校案内リーフレット、メールマガジン等の更新・充実により、積極的に情報を発信する。
- ウ 生徒が小さな成功体験を積み重ねることで、真心を持って他者と協働し、地域に貢献する力を育成するために、部活動生徒を中心に近隣の福祉施設、地元商店街、近隣中学校、支援学校など各機関・団体との交流・連携を推進し、その成果を積極的に発信する。

4. 共生推進教室の充実とインクルーシブな学校づくり ~ 共に学び、友と育つ力を育む

本年度で 6 年目となる「共生推進教室」について一層の充実を図り、インクルーシブな学校づくりを進める。

- ア 信太高校全体の活動を通じて、すべての生徒が「ともに学び、友と育つ」教育をすすめる。
- イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進め、共生の生徒の自立に向けた取組みを支援する。

5. チーム学校「チーム信太」で力を合わせて生徒を育てる体制づくり

- ア 教職員相互の学校運営への参画意識を醸成し、分掌や学年をこえた同僚性を確立し、あらゆる教育活動において、教員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|--|---|
| <p>(授業) 「授業を理解できている」70.5%(+10.2)の肯定率となった。プロジェクトの配置、教員の授業力向上による効果が出ている。「興味もてる授業が多く、そのために先生も工夫している」も(+5.0)アップしたが61.6%と改善の余地がある。その後も肯定値がアップしている。</p> <p>(学校生活) 「学校に行くのが楽しい」65.5%、「信太高校に入ってよかったと思う」58.4%、少しダウン。「学校生活は充実していると思う」71.5%(+2.5)は微増。生徒が楽しく登校できるような工夫が必要である。一方、「悩みがあったときに相談できる先生が多い」59.4%(+8.7)、「先生はいじめ等いろいろな問題を見逃さず対応してくれる」71.0%(+7.7)など、安全安心な学校作りへの評価は向上している。</p> <p>(進路指導) 進路指導に関する肯定値は、生徒 83.4%(+1.9)、保護者 76.3%(-0.3)、教職員 95.5%(+2.9)で、生徒・教職員は高い評価であるが、保護者との連携強化が必要。</p> <p>(部活動) 「熱心に取り組んでいる」生徒 87.3%(+2.8)、保護者 82.2%(+0.4)、教職員 95.5%(±0)。活動への評価は高いが入部率は伸び悩み。</p> <p>(共生推進室) 「共に学ぶ教育が進んでいる」生徒 74.6%(+8.0)、保護者 72.4%(-3.0)、教職員 90.9%(-0.1)保護者への見える化が課題。</p> | <p>第1回(6月14日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が生徒を教えるというアクティブラーニングを取り入れるべきである。 ・授業改善の取り組みについて、10年経験者研修のメンバーが主催する自主研修会等を開催してみようか。 ・クラブ加入率の向上を目標としているが、入りたくても入れない生徒もいる。そのような生徒にプレッシャーにならないように。 ・英語への苦手意識克服には、英語での映画鑑賞、英語演劇、洋楽合唱コンクールなど取り入れてみようか。 <p>第2回(11月15日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信太でのアクティブラーニング、グループワークは先生方がうまく取り組んだので、良い方向に向かっている。 ・グループワークはペアから4～5人へ。対話ができるような生徒の育成を。 ・信太の生徒の個性が良い感じで出ている。就職率が良い理由の1つではないか。 ・転退学の生徒が少ない。アクティブラーニングについて、対話ができるような生徒を育てられれば良い。何か信太モデルを作って、最初は数名の先生で行い、それが学校全体に広がれば良いのでは。 <p>第3回(1月24日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H31年度の学校評価で昨年度以上が60～70%もあり、とても頑張っておられる。 ・「ほめる。認める。励ます」を充実させてほしい。 ・学校教育自己診断では部活動への評価は非常に高い。部活動加入率の改善には、加入状況の数値分析や活動形態の工夫などが必要だと思われる。中学校でも団体競技への入部率は下がる傾向にある。 ・文化祭など行事の充実、生徒が楽しいと思える行事を行ってほしい。 ・令和2年度学校経営計画について承認。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|----------------------------------|---|--|---|---|
| 1 生徒指導、生徒支援の徹底で、「安心して学べる」学校空間づくり | <p>ア全教職員で基本的生活習慣のさらなる定着に取り組む。</p> <p>イ学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。</p> <p>ウ教育支援体制、生徒の相談機能の充実</p> <p>エいじめがない安全・安心な学校づくり</p> | <p>ア スポーツ科学専門コースの生徒をはじめ、全校生徒の社会人基礎力の育成を本校の第一の特色とし、あらゆる学校行事において生徒指導の目的を理解させたいと、あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、美化活動及び授業態度等の基本的生活習慣の改善・定着をさらに推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員による早朝の服装頭髪指導(月2回)を継続する。 <p>イ 早朝登校、保護者との話し合いなどを取り入れた遅刻指導をさらに推進する。</p> <p>ウ 「信太教育支援体制」を確立させ、学年会議、担任会、教育支援委員会、共生推進コーディネーター、保健室等の間で生徒情報の共有を早期から行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な生徒に対して、教育支援カードの活用、個別支援計画等により、配慮の内容を職員会議等において全教職員で共有化する。 ・「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒の居場所づくりとスクールソーシャルワーカーの配置により、子ども家庭センター、福祉医療関係機関等と連携しながら効果的な生徒支援を組織的に行う。 <p>エ いじめがない安全・安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートは、事後活用に重点を置き、いじめ防止・対策委員会を中心に対応協議、生徒対応を、組織的、迅速に行う。 | <p>ア・全職員による毎朝の挨拶運動と服装頭髪指導(月2回)において、生徒への声掛けを充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」前年度以上を維持。(H30: 56.6%) <p>イ・年間延べ遅刻者数 2,500 回未満。(H30: 年度末 2,506 回)</p> <p>ウ・学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」前年度以上を維持。(H30: 75.6%)</p> <p>エ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」72%以上に。(H30: 71.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」前年度以上を維持。(H30: 63.3%) | <p>ア・毎朝の挨拶運動は、当番に加え、多くの教員の協力で実施できた。服装頭髪指導も計画通りに実施し効果を上げた()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」61.4%(H30: 56.6%)() <p>イ・年間延べ遅刻者数。年度末 2,750 回(H30 年度末 2,506 回)2 学期までは昨年を下回る数であった。年度後半の取組が課題である。()</p> <p>ウ・LGBT 講演会、SNS・スマホ講演会等、人権教育を1年間系統的に行った。講演会の振り返りは充実しているので、日常生活での意識づけが課題と考える。学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」73.9%(H30: 75.6%)()</p> <p>エ・日常的にいじめにつながる事象の防止に努めた。いじめアンケートを実施し、いじめの芽を摘む指導に活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」75.0%(H30: 71.8%)() ・学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」71.0%(H30: 63.3%)() |

府立信太高等学校

| | | | | |
|-----------------------------|--|---|---|---|
| <p>2.さらなる授業改善とキャリア教育の充実</p> | <p>(1)「学ぶ力」プロジェクト推進 ア 「学ぶ力」プロジェクトチームによる「信太スタンダード」のさらなる共有化</p> <p>(2)キャリア教育の推進 ア 3年間を見通したキャリア教育</p> <p>イ 全生徒の資格取得の推進</p> <p>ウ スポーツ科学専門コースの学びを人生に活かす力の育成</p> | <p>ア 3年間の「学ぶ力」プロジェクトチームの成果を継承し、府立高校、支援学校、中学校と連携しながら研究、実践、成果共有を行う。 ・生徒一人ひとりの特性を生かしたカリキュラムとするため、各授業において、生徒自身が毎時間振り返りを行うことで、生徒の自尊感情の育成を図る。教員は、生徒の「授業の振り返り」方法を自己申告票に記載し、授業改善につなげる。 ・泉大津市教育委員会と連携しながら、11月の公開授業週間等でテーマ別の研究授業を実施。 ・他の府立高校、支援学校、中学校等と連携しながら、1月の教職員研修で「学ぶ力」プロジェクトチームの実践報告を行い、その成果を全教員に共有する。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業力向上のための交流を支援学校と行う。</p> <p>ア 3年間を見通した系統的・組織的なキャリア教育により、未来を切り拓く力を育む ・生徒一人ひとりの進路目標を確立させるために、1・2年の早期から大学・企業などの体験学習等を積極的に実施する。 ・「総合的な探究の時間」において、専門学校等の外部人材を活用し、将来の職業を考え、発表する力を身につけさせる。 基礎学力の定着、自己理解を深める 情報処理能力の育成</p> <p>イ 漢字検定や毎日パソコンコンクールの全員受験を引き続き継続する。</p> <p>ウ スポーツ科学専門コースの授業において、支援学校交流を生徒が企画・実施し、学んだ技術や戦術、練習に取り組む姿勢などを他者に伝承する。</p> | <p>ア・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」63%以上。(H30:60.3%) ・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」80%以上。(H30:78.8%) ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」3.12以上。(H30:第1回3.16 第2回3.09) ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」3.12以上。(H30:第1回3.19 第2回3.11) ・授業力向上のための交流を、1回以上実施。</p> <p>ア・卒業時の進路決定率97%以上。(H30:95.8%、H29:96.4%、H28:94%) ・生徒・保護者の進路指導満足度ともに80%以上。(H30:生徒81.5%、保護者76.6%) ・就職内定率は、100%の継続 ・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」55%以上。(H30:53.0%)</p> <p>イ・漢字検定合格率60%以上。(H30:50.3%)</p> <p>ウ・スポーツ科学専門コースの授業アンケートの「興味・関心」3.70以上。(H30:第1回3.70 第2回3.40) ・スポーツ科学専門コースの授業アンケートの「知識・技能」3.70以上。(H30:第1回3.73 第2回3.50)</p> | <p>ア・「10年研チーム」を中心に授業力向上のための研修・研究、公開授業、実践報告会に取り組み授業改善を行った。泉大津市教委・近隣中学校・専門学校等との連携、大学等外部講師による教職員研修で授業改善を推進した。 ・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」70.5%(H30:60.3%) () ・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」82.8%(H30:78.8%) () ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」第1回3.15 第2回3.12(H30:第1回3.16 第2回3.09)() ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」第1回3.17 第2回3.15(H30:第1回3.19 第2回3.11)() ・すながわ高等支援学校と交流実施()ユニバーサルデザインの具体化にとっても参考になった。 ア・卒業時の進路決定率96.0%(H30:95.8%)() ・生徒の進路指導満足度83.4%(H30:81.5%)() 保護者の進路指導満足度76.3%(H30:76.6%)() ・就職内定率100%() ・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」54.0%(H30:53.0%)() イ・漢字検定合格率32.8%(H30:50.3%)()上位級合格をめざす生徒が増えた。 ・2級合格者1名、準2級合格者7名、3級合格者55名、4級合格者23名 ウ・スポーツ科学専門コースの授業アンケートの「興味・関心」第1回3.64 第2回3.65(H30:第1回3.70、第2回3.40)() 「知識・技能」第1回3.67 第2回3.69(H30:第1回3.73 第2回3.50)()第1回は目標値に届かなかったが、第2回の数値は過去最高となった。</p> |
| | <p>3.開かれた学校づくりと部活動の充実</p> | <p>ア 運動部及び文化部と学校行事の活動の一層の充実</p> <p>イ 学校説明会・体験入学などの充実</p> <p>ウ 地域貢献活動のさらなる推進</p> | <p>ア 誰もが部活動に入れるよう、部活動環境のさらなる整備と行事の充実を図る。 ・文化的活動推進のための、大学や専門学校による出前講座の実施。</p> <p>イ 中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ、学校紹介DVD、学校案内リーフレット等の改訂及び校長ブログ、部活動ブログの充実により、積極的に情報を発信する。</p> <p>ウ 近隣の福祉施設、地元商店街、近隣中学校、支援学校など各機関・団体との交流・連携を推進する。 ・地域夜回り、部活動生徒による福祉施設訪問を継続。 ・地元商店街と連携し、地域清掃活動を継続。 ・スポーツ科学専門コースによる支援学校交流(再掲)部活動による中学生対象の講習会や教員対象の指導者講習会を実施する。</p> | <p>ア・部活動加入率45%以上。(H30:42.9%) ・学校教育自己診断での「学校生活充実度」70%以上(H30:69%) ・出前講座を1回以上実施。</p> <p>イ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度98%以上を維持。(H30:100%) ・中学校訪問1・3年生の出身校100校以上。(H30:延べ115校)</p> <p>ウ・地域行事参加年間15回以上を維持。(H30:15回) ・地域清掃活動年間250回以上を維持。(H30:250回) ・中学生対象部活動行事年間24回以上を維持。(H30:24回)</p> |

府立信太高等学校

| | | | | |
|------------------|--|--|--|--|
| 4 共生推進授業の実現 | <p>ア すべての生徒が「ともに学びともに育つ」教育を進める。</p> <p>イ 共生の生徒の自立、社会参加に向けた取組みを支援する。</p> | <p>ア 1年生のクラス開きで、「障がい理解 HR」を実施し、障がいのある生徒とない生徒が、あらゆる行事とともに参加するために、必要な配慮を行う。</p> <p>イ 3年間の人権HR計画をもとに、あらゆる人権HR、人権講演会、人権行事において振り返りを行い、その成果を全教員、全生徒にフィードバックし、人権感覚の醸成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進める。 ・SSTを取り入れた自立活動の授業を行い、公開授業を実施する。 ・学校説明会等において、生徒が中心となり、「ともに学ぶ教育」の説明や運営を行う。 | <p>ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ』教育」生徒、保護者ともに66%以上。(H30:生徒66.6%、保護者75.4%)</p> <p>イ・学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」75%以上を維持。(H30:75.6%)(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府立高校や近隣の中学校と連携し、「自立活動」公開授業を年2回実施。 | <p>ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ教育』」生徒74.6%、保護者72.4%(H30:生徒66.6%、保護者75.4%)()</p> <p>イ・3年間を見通した人権教育を策定し、人権講演会と振り返りHRを実施。</p> <p>学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」73.9%。(H30:75.6%)(再掲)()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生体験入学、堺市中学校、教育庁などで4回実施。() |
| 5 チーム学校の職場づくり | <p>ア チーム学校(チーム信太)で学び合い、力を合わせて生徒を育てる体制づくり</p> <p>イ 経験年数の短い教員の育成</p> <p>ウ 教職員の働き方改革の推進</p> | <p>ア 職員会議、教職員研修を通して、教職員の学校運営参画意識を高め、同僚性を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新カリPT」を中心に常に全教職員にフィードバックしながら、学校目標を実現するための教育課程を編成する。 <p>イ 生徒、教員、保護者が「チーム」信太として、教育活動を積極的に発信する。経験年数の短い教職員に対しては、主任等ミドルリーダーによるOJTを徹底する。</p> <p>ウ 職員会議を原則として月1回とし、資料番号の統一と配付方法のさらなる見直しを行うとともに、教材の共有化を進め、教職員の働き方改革を推進する。</p> | <p>ア・学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」75%以上。(H30:74.6%)</p> <p>イ・生徒指導・保護者対応等については、ベテラン教員と経験年数の短い教員が複数で対応する機会を多く設ける。</p> <p>ウ・教職員一人当たりの年休年間取得日数の平均15日以上。(H30:16日、H29:14.5日)</p> | <p>ア・学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」72.8%。(H30:74.6%)()話し合いの時間確保が課題である。</p> <p>イ・学年主任、学年生徒指導主担者がリーダーシップを発揮し、担任と連携し、生徒・保護者の信頼を得ながら指導に当たった。()</p> <p>ウ・教職員一人当たりの年休年間取得日数の平均15日。(H30:16日)()</p> |